

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-339402

(43)公開日 平成6年(1994)12月13日

(51)Int.Cl.⁵

A 4 3 B 17/08

識別記号

庁内整理番号

8016-4F

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 1 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平5-154438

(22)出願日 平成5年(1993)5月31日

(71)出願人 592124333

吉田 勇夫

大阪府大阪市生野区小路東5丁目5番4号

(72)発明者 吉田 勇夫

大阪府大阪市生野区小路東5丁目5番4号

(74)代理人 弁理士 藤田 邦彦 (外1名)

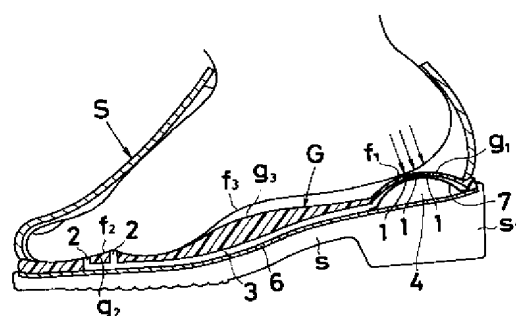
(54)【発明の名称】 履物用中敷

(57)【要約】

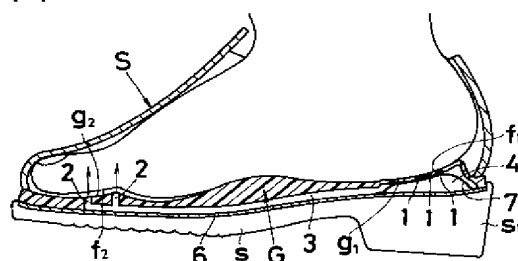
【構成】 履物Sを履いた場合に接する足裏の踵部 f_1 に対応する部分 g_1 を、上突弧状に突出させるとともに、上突弧状に突出させた該部分 g_1 に空気挿通用の孔1を形成する。また、履物Sを履いた場合に接する足裏の指の付け根 f_2 付近に対応する部分 g_2 に、空気挿通用の孔2を形成する。そして、両孔1, 2を連通するごとく空気通路3を形成する。

【効果】 履物Sの底体s上にこの中敷Gを取り付けると、履物Sを履いた場合に接する足裏の踵部 f_1 に対応する部分 g_1 と履物Sの踵部 s_1 との間に、空室4が形成され、この履物Sを履いた上で足裏の踵部 f_1 を浮かせると、孔1から空室4内に空気が侵入する。逆に、足裏の踵部 f_1 で中敷Gを踏みつける一方、足裏の土踏まず f_3 より前側の部分を浮かせると、空室4内に溜まっている空気が空気通路3を通過して孔2から履物S内に送り出され、足の蒸れを防止することができる。

(a)



(b)



【特許請求の範囲】

【請求項1】履物Sの底体s上に取り付けられるものであって、履物Sを履いた場合に接する足裏の踵部f₁に対応する部分g₁を、上突弧状に突出させるとともに、上突弧状に突出させた該部分g₁に空気挿通用の孔1を形成し、また、履物Sを履いた場合に接する足裏の指の付け根f₂付近に対応する部分g₂に、空気挿通用の孔2を形成し、中敷Gの裏側において両孔1、2を連通するごとく空気通路3を形成したことを特徴とする履物用中敷。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、例えばスポーツシューズ等の靴やサンダルなどの履物に取り付けられるものであって、履物を履いた場合に足が蒸れるのを防止し得るように工夫された履物用中敷に関するものである。

【0002】

【従来の技術】例えば、スポーツシューズを履いて運動すると、激しい動きによって足が特に蒸れやすい。この蒸れを防止するために、スポーツシューズ自体や中敷に通気性を有する素材を用いたものが種々開発されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、これらはあくまでも素材自体が有する通気性に止まり、通気性の機能を完全には果たしていない。本発明は、この種の靴やサンダルなどの履物の通気性をさらに良好ならしめ得るような中敷を提供することを目的とするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するため、本発明では、履物Sを履いた場合に接する足裏の踵部f₁に対応する部分g₁を、上突弧状に突出させるとともに、上突弧状に突出させた該部分g₁に空気挿通用の孔1を形成し、また、履物Sを履いた場合に接する足裏の指の付け根f₂付近に対応する部分g₂に、空気挿通用の孔2を形成し、中敷Gの裏側において両孔1、2を連通するごとく空気通路3を形成する。

【0005】

【作用】本発明の中敷Gを履物Sの底体s上に取り付けた場合、図3に示すように、履物Sを履いた場合に接する足裏の踵部f₁に対応する部分g₁と履物Sの踵部s₁との間に、少なくとも空室4が形成される。そして、この履物Sを履いた上で図4(a)に示すように足裏の土踏まずf₃より前側の部分で中敷Gを踏む一方、足裏の踵部f₁を浮かせると、この踵部f₁に対応するg₁部分に形成されている孔1から空室4内に空気が侵入する。

【0006】次いで、図4(b)に示すように先程の場合とは逆に、足裏の踵部f₁で中敷Gを踏み付ける一方、足裏の土踏まずf₃より前側の部分を浮かせると、空室4内に溜まっている空気が空気通路3を

S内に送り出される。従って、この空気により足の蒸れを防止することができる。

【0007】

【実施例】本発明の実施例を添付の図面に基づいて説明する。図1は履物用中敷の平面図、図2は図1のA-A線断面図である。この中敷Gは図3に示すように履物Sの底体s上に取り付けられるものであり、履物Sを履いた場合に接する足裏の踵部f₁に対応する部分g₁を、上突弧状に突出させるとともに、上突弧状に突出させた該部分g₁に空気挿通用の孔1を形成する。また、履物Sを履いた場合に接する足裏の指の付け根f₂付近に対応する部分g₂に、空気挿通用の孔2を形成する。

【0008】なお、孔1、2は1個のみでもよいが、実施例に示すように複数設けた方がよく、特に、孔2は5本の足指の付け根に対応させ得るように同一線上に5個配置するとともに、例えば前後2列というように前後複数列となるごとく配置する方がよい。

【0009】一方、中敷Bの裏側において両孔1、2を連通するごとく空気通路3を形成する。実施例においては、中敷Bの裏側においてその前後方向に続く細い溝状の凹所を形成することによって、履物Sの底体s上にこの中敷Gを取り付けたとき、両者間に細い空気通路3が形成されるようにしてある。

【0010】なお、図1及び図7において、5は、上記空気通路3の途中に位置し、履物Sを履いた場合に接する足裏の指の付け根f₂付近に対応する部分g₂の後方に形成された、中敷Sの裏側における凹所であり、空気通路3に比べるとそれよりも広くしてある。

【0011】この中敷Gは、例えば、ポリウレタン(PU)、エチレン酢酸ビニル共重合体(EVA)、ポリブタジエン(RB)、スチレン系熱可塑性エラストマー(TR)、ポリ塩化ビニル(PVC)など、弾性を有する材料で形成するのが好ましい。

【0012】この中敷Gを履物Sの底体s上に取り付けると、図3に示すように、履物Sを履いた場合に接する足裏の踵部f₁に対応する部分g₁と履物Sの踵部s₁との間に、空室4が形成される。また、中敷Gの裏側と履物Sの上面との間に、孔1と2とを連通するごとく前後方向に続く空気通路3が形成される。そして、この履物Sを履いた上で図4(a)に示すように足裏の土踏まずf₃より前側の部分で中敷Gを踏む一方、足裏の踵部f₁を浮かせると、この踵部f₁に対応するg₁部分に形成されている孔1から空室4内に空気が侵入する。

【0013】次いで、図4(b)に示すように先程の場合とは逆に、足裏の踵部f₁で中敷Gのg₁部分を踏み付ける一方、足裏の土踏まずf₃より前側の部分を浮かせると、空室4内に溜まっている空気が空気通路3を

3

に同一線上に5個配置するとともに、例えば前後2列というように前後複数列となるとく配置すると、5本の足指のそれぞれの付け根付近に空気が送られるから、足の蒸れ防止に特に効果的である。

【0014】なお、実施例に示すように、空気通路3の途中にこれよりも広い凹所5が形成されていると、履物Sを履いた上で図4(a)に示すように足裏の土踏まず f_3 より前側の部分で中敷Gを踏み付けた一方、足裏の踵部 f_1 を浮かせた際、足指の裏側で塞がれている前側の孔2から空気が洩れるのを可及的に防止することができるであろう。

【0015】図1に示す中敷は履物Sの左側用のものであり、その各部分における上面は図5～図8に示すように左足の足裏の凹凸形状に対応させて窪ませたり、逆に、突出させるものとする。図5は図1のB-B線における拡大端面図、図6は図1のC-C線における拡大端面図、図7は図1のD-D線における拡大端面図、図8は図1のE-E線における拡大端面図であり、中敷Gの各部分における上面が左足の足裏の凹凸形状に対応して窪んだり、逆に、突出していることが各図から容易に理解できるであろう。一方、右側用の中敷は図1に示すものと左右対称的に形成するものとする。

【0016】なお、実施例においては、履物Sの底体s上に中敷Gを取り付けるに当り、1枚の内皮6を介在させてあり、上記空室4や空気通路3はこの内皮6との間に形成される。もっとも、この内皮6を設けずに、中敷Gを履物Sの底体s上に直接取り付けるとしてもよい。

【0017】また、実施例においては、履物Sを履いた場合に接する足裏の踵部 f_1 に対応する部分 g_1 の裏側であ

4

って上記空室4内に、板ばねのような弾撓体7を配置しておき、足裏の踵部 f_1 で中敷Gを踏み付けた後足裏の踵部 f_1 を浮かせたとき、直ちに g_1 部分が上突弧状に復元するようにしておくのがよい。

【0018】

【発明の効果】本発明による履物用中敷を用いた場合には、少なくとも足裏の踵部 f_1 を浮かせた後踵部 f_1 で中敷Gの g_1 部分を踏み付ける一方、足裏の土踏まず f_3 より前側の部分を浮かせるだけで、足裏の指の付け根 f_2 付近に強制的に空気を送り出すことができるので、従来の場合に比べて足が蒸れるのを大幅に軽減することができる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の履物用中敷の一例を示す平面図である。

【図2】図1のA-A線断面図である。

【図3】本発明の履物用中敷を靴に適用した場合の使用状態を示す断面図である。

【図4】本発明の中敷の作用を説明するための断面図である。

【図5】図1のB-B線における拡大端面図である。

【図6】図1のC-C線における拡大端面図である。

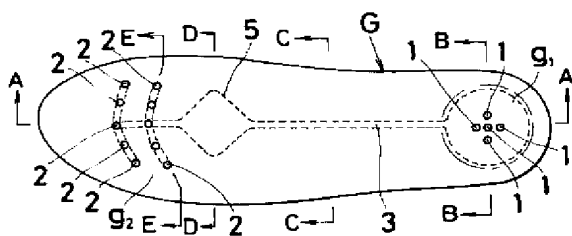
【図7】図1のD-D線における拡大端面図である。

【図8】図1のE-E線における拡大端面図である。

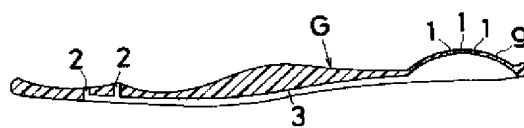
【符号の説明】

S—履物、 s—底体、 f_1 —足裏の踵部、 f_2 —足裏の指の付け根、 f_3 —足裏の土踏まず、 G—中敷、 g_1 —足裏の踵部に対応する部分、 g_2 —足裏の付け根付近に対応する部分、 1、2—空気挿通用の孔、 3—空気通路。

【図1】



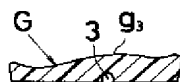
【図2】



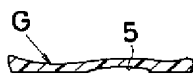
【図5】



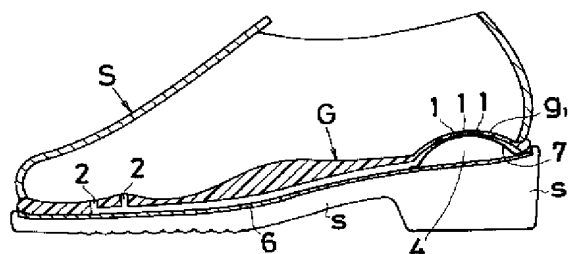
【図6】



【図7】



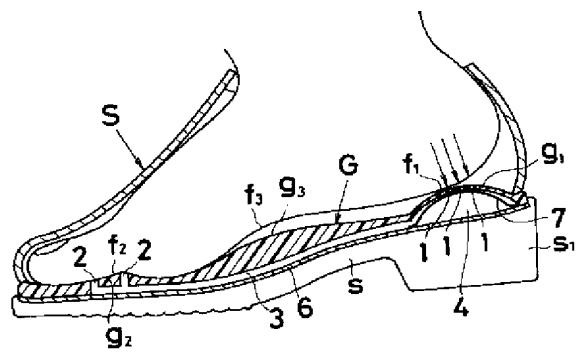
【図3】



【図4】

【図8】

(a)



(b)

